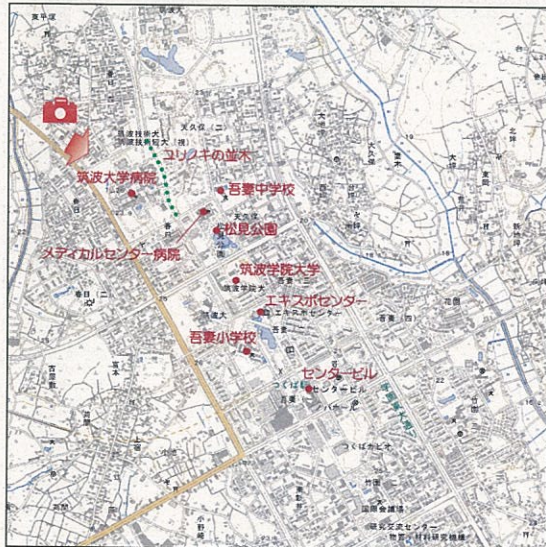


80 年代の学園都市を空撮写真で振り返る

筑波大学病院と松見公園周辺

1984 年撮影



つくばセンタービル (83 年 6 月オープン) が映っているのに対して、エキスポセンター (85 年 3 月開館) がまだ建設前であることから 1984 年ごろの写真と思われます。

現在のメディカルセンター病院、吾妻中学校、筑波学院大学などはまだできておらず、周辺にも空地がたくさん残っています。筑波大構内のユリノキなどの街路樹も十分成長しておらず背丈も低いです。

筑波西部工業団地

1988 年撮影



この写真で整備中の工業団地（筑波西部工業団地）は、1985 年に開催された国際科学技術博覧会（科学万博 -TSUKUBA EXPO' 85）のメイン会場の跡地で、エレクトロニクスや新素材・バイオテクノロジーなどハイテク産業関連の企業が進出しはじめています。

写真左端の一角には、万博が開催されたことを記念する公園が整備されています。

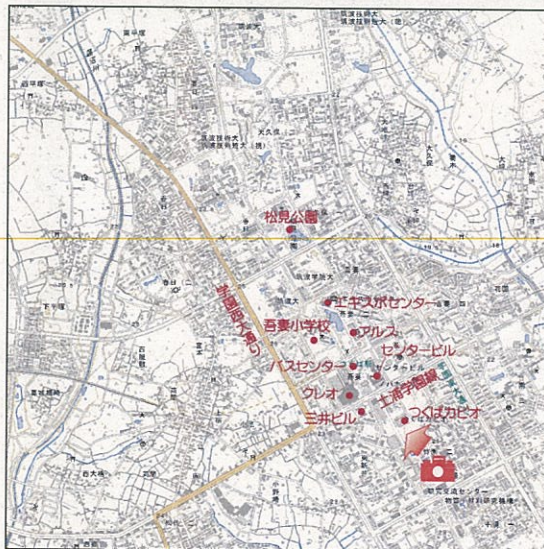
つくばエクスプレス (TX) の建設はまだ始まっていません。

80 年代の学園都市を空撮写真で振り返る

学園都市中心部 '88



1988 年撮影



ショッピングセンター・クレオがオープンしています。三井ビルの基礎工事も始まっていますが、現在つくば文化会館「アルス」や多目的ホール「つくばカピオ」のある場所をはじめ、学園都市の中心部にも空き地が目立ちます。

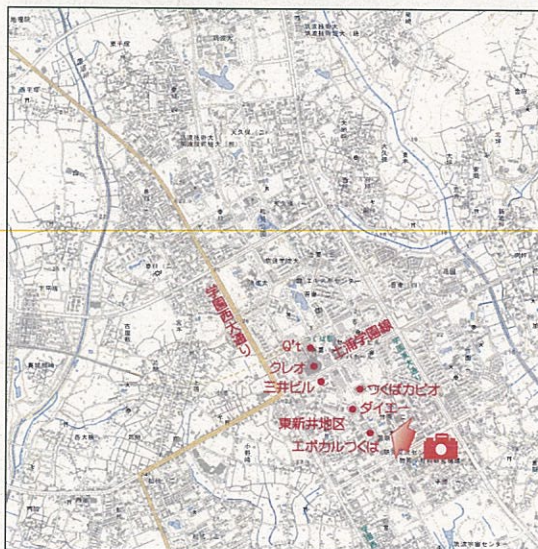
つくばエキスポセンターのシンボルの「HII ロケット」の姿もまだありません。

写真は山田圭一筑波大学名誉教授より国土地理院に寄贈されたものです。展示の画像は 35mm スライドフィルムから拡大出力しています。

学園都市中心部 '91



1991 年撮影



写真中央付近に見えるひとときわ高い建物が、1990 年 4 月にオープンした地上 19 階、高さ 88m の三井ビルで、オフィスと店舗が入居しています。

写真左手前の東新井地区には、一般住宅や商業施設が建ちはじめています。これらの建物の周辺には駐車場の多さが目立ちます。現在は、つくばカピオやQ'tがある場所も駐車場に利用されています。手前中央の大きな建物はダイエー（現在はデイズタウンつくば）、その南側の空き地に国際会議場（エポカルつくば）が建設されています。

国土地理院が作成した 都市集成図

■研究学園都市つくば

1/30000 昭和 59 年編集

筑波で開催された科学万博に合わせて国土地理院が作成・刊行した集成図です。

表8色、裏6色の菊判折り図で、表図は25000分1地形図を30000分1に縮小した基図のうえに移転機関等の敷地を色別に表示し、主な建物をイラストで立体的に表しています。

範囲は、学園都市を中央に、北は筑波山から南は当時の茎崎町の南端まで、現在のつくば市がほぼカバーされたものとなっています。

裏には、表図に表示した機関の一覧と、東京と筑波の位置関係を示した地域概念図、10000分1の縮尺で学園中心部から万博会場までが収まる詳細図が配置されています。

定価 600 円で販売されました。

■つくば

1/40000 平成 7 年印刷

平成 3 年に作成された 40000 分1集成図「つくば」の改訂版で、平成 7 年に印刷されました。

表6色、裏6色の四六判折り図で、表図は50000分1地形図を拡大して基図に使用した変則的な編集方法が採用されています。

筑波山から龍ヶ崎市街までの範囲が収められた広域図で、基本図数値情報の標高データを用いた段彩と陰影で地形を表現するなど、コンピュータ処理による地図作成の試みが導入されています。

裏図は、5000分1縮尺の「学園都市首部」図で、街路樹が樹種別に細かく表現されていたり、建物が用途別に色分けされています。さらに、公務員住宅には棟番号が付されていて利便性が図られています。

「測量の日」イベントの来場者などに配布されました。

■研究学園都市つくば

1/17000 平成 20 年編集

2500 分1都市計画図から作成された集成図で、四六判サイズの片面、印刷はPCで作図した原稿からプロセス印刷する方法が採用されています。

高エネ研究機構から森林総研までの範囲を四六判にできるだけ大きく収めるため、17000分1という縮尺となっています。

基準点・標高点・等高線など土地の高低に関する情報や、基本図のような植生記号はなく、土地利用は「研究機関、宅地・未耕地、既耕地、公園、ゴルフ場、樹林」に区分して面的に表示されています。道路の幅員は16区分に細分化される一方、鉄道はJRと他の私鉄の区別はありません。

ユニバーサルデザインを考慮してイラスト要素の強い地図記号を用いるなど、これまでの基本図とは大きく印象の異なる地図となっています。

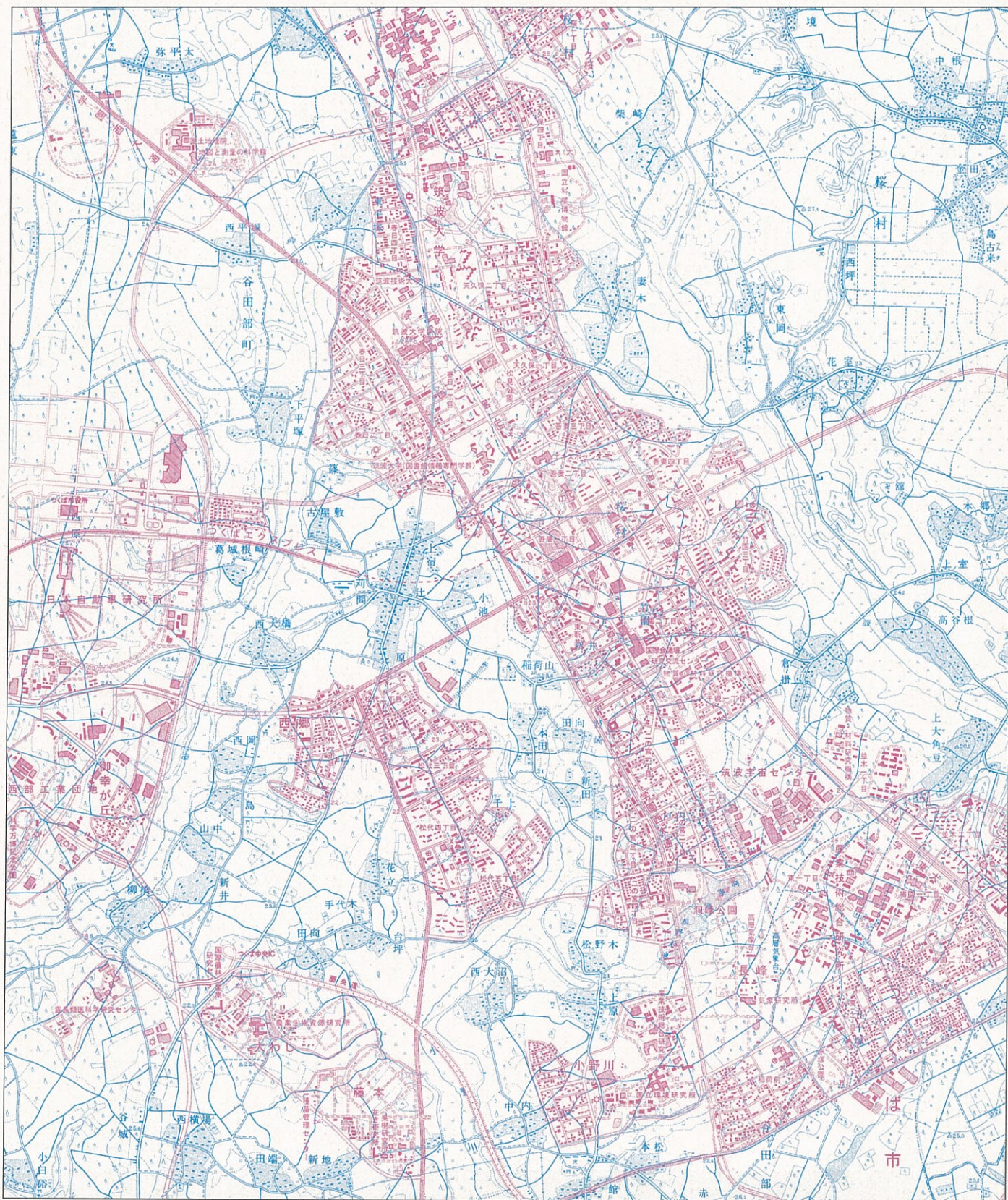
日本語版のほか、同内容の英語版があり、国土地理院の技術資料になっています。

「測量の日」20周年に「測量の日実行委員会」がこの地図を使用して記念地図を作成し、一般配布しました。

空中写真で見る学園都市の今むかし

床に展示した空中写真は、2009 年（平成 21 年）に撮影された学園都市中心部と、建設が始まる前の 1961 年（昭和 36 年）に撮影された同地域です。写真を比べて見ると、学園都市が作られる前のこの地域の姿やその変貌を見てとることができます。

下の地図は、写真の比較がしやすいように、撮影の時期とほぼ同じ時期に作成された地形図を重ねています。赤色で表示した「平成」の地図は、学園都市建設で大きく改変されたところを部分的に表示しています。

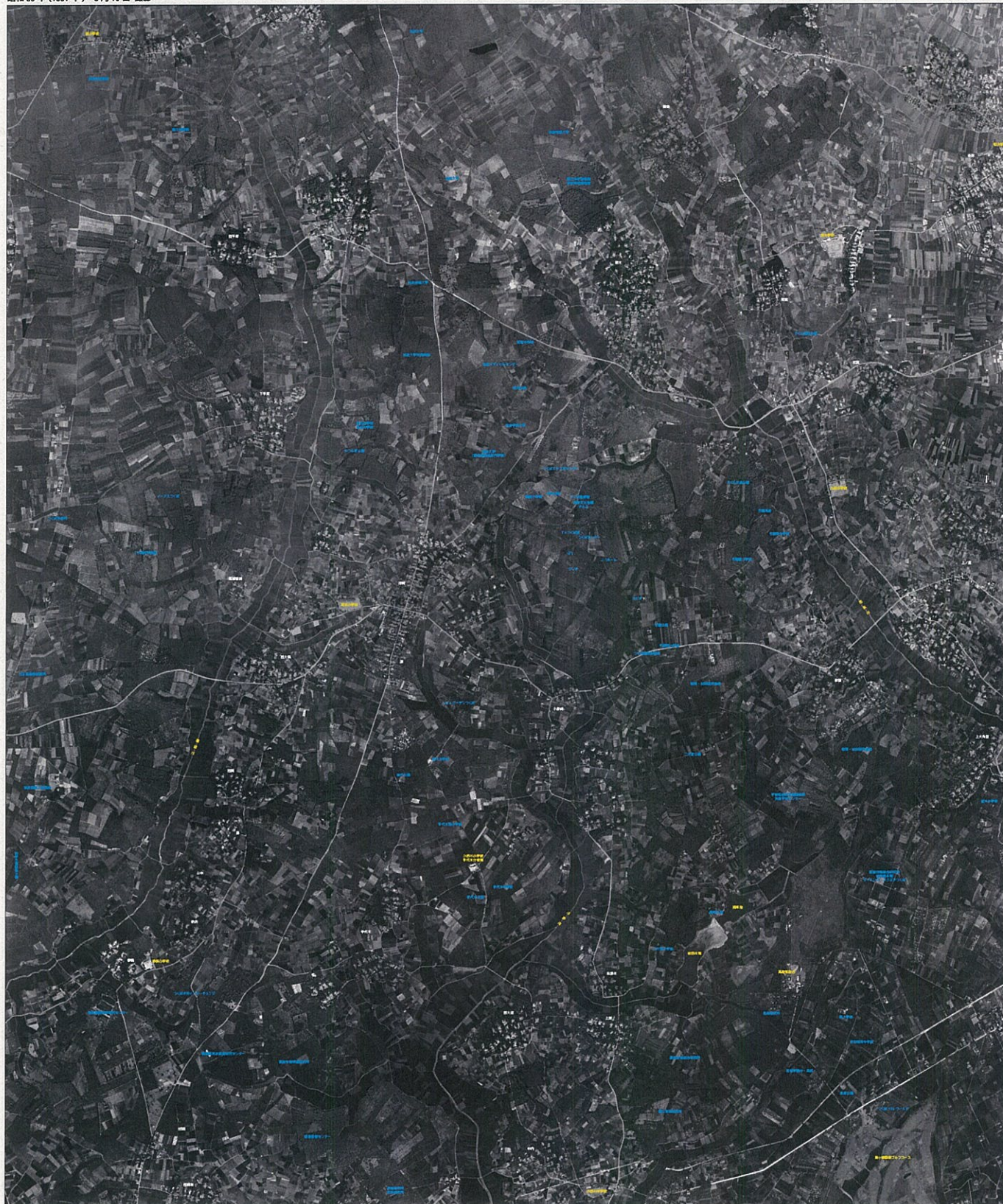


青色：昭和 35 年（1960 年）測量 25000 分 1 地形図
赤色：平成 19 年（2007 年）更新 25000 分 1 地形図【一部改変】

0 500m 1 2km

研究学園都市建設を待つ「つくば」

昭和36年(1961年) 8月10日 撮影



上について自由にご覧ください

研究学園の文字表記(○)は、官民共同開発(1961年/昭和36年)の計画段階より付与された地名です。
なお、『筑波研究学園都市』(筑波研究学園都市)の地名は、2000年(平成12年)の調査に基づいています。
研究学園の文字表記(△)は、研究学園都市として正式に指定された区域の地名を記載しています。
研究学園の文字表記(□)は、研究学園都市から離れた地域の地名を記載しています。